

本校における「キャリア教育」への取り組み

群馬県立渋川青翠高等学校

P T A 会長 高橋 茂

1 はじめに

現代の日本社会には若者が将来の展望を持ちにくい状況があり、若者の就労をめぐっては、高い離職率・ニートやフリーターの増加等の問題が生じています。また、高校教育においても、生徒の勤労観・職業観の希薄化、社会人・職業人としての資質の欠乏等の課題が生じてきています。こうした情勢を踏まえ、社会人・職業人としての自立を目的とする「キャリア教育」が高校教育において重視されてきています。

このような状況を踏まえ、今回、本校 P T A 活動が「キャリア教育」にどのように取り組んでいるかを報告し、高校教育と P T A のあり方を考えたいと思います。

2 本校の概要

(1) 本校の沿革

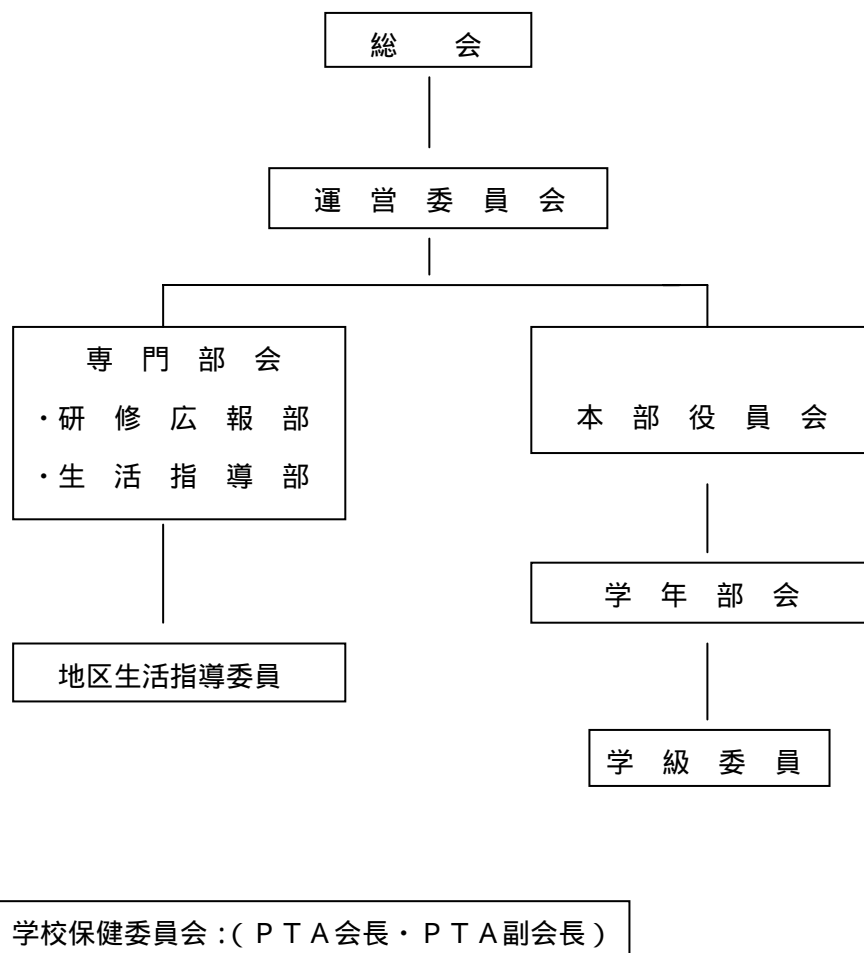
本校は、昭和 5 2 年 4 月に「群馬県立渋川西高等学校」として普通科 1 学年 8 学級で開校し、その後、商業科・情報処理科が併設されました。

平成 1 0 年度に県下 2 校目の総合学科高校として改編され(1 学年 5 学級) 校名を「渋川青翠高等学校」と改名しました。平成 1 8 年度には創立 3 0 周年を迎え、今年総合学科 1 1 期生が入学しました。現在の生徒数は 595 名(男子 201 名 女子 394 名)[平成 20 年 10 月現在]で、全校生徒が、学業をはじめ、部活動・資格取得等に日々努力しております。

(2) 総合学科としての特色

総合学科としての本校の教育課程は、生徒の多様な興味関心・進路希望に応じた教科・科目の選択ができるように、多くの科目・講座(今年度については 84 科目 269 講座)が設けられています。また、徹底した少人数編成の授業の中で、それぞれの生徒の個性を伸ばす教育を行っています。

(3) 本校PTAの組織



3 本校におけるキャリア教育への取り組み

本校における「キャリア教育」は、高校段階で生徒に身に付けさせたい能力を「自他の理解能力」「コミュニケーション能力」「情報収集・探索能力」「職業理解能力」「役割把握・認識能力」「計画実行能力」「選択能力」「課題解決能力」の8項目の視点から捉え、種々の教育活動を通してその育成を図っています。これら8項目は、本校が総合学科として設置された当初から教育目標としてきた『心身共に均整のとれた、人間性豊かな、実行力ある社会人を育成する』ことと合致するものです。このような理念の下、本校では、3年間を通じた「キャリア教育」に取り組んでいます。

以下、各学年ごとに本校の「キャリア教育」の取り組みを紹介します。

(1) 1年次...「産業社会と人間」

自分自身を見つめる「ライフプランの作成」、自己や社会のあり方を考える「福祉交流」、進学先のことを知る「キャンパス見学」、社会人のあり方を知る「社会人講話」など様々な活動を通し、自己の将来について深く考え、自分の進路に合った2・3年次の時間割を作成します。また、「職業調べ」や「キャンパス見学」「福祉交流」等の成果について生徒一人一人がクラス内で発表する機会があり、「ライフプランの作成」については、クラス発表を経て代表者による全体発表が校内で行われます。

(2) 2年次...「総学セミナー」

1年次の「キャリア教育」を活かし、自己のあり方・生き方についてさらに探究します。進学希望の生徒については、自ら収集した進路情報を元に計画実施する「キャンパス見学」を、就職希望の生徒については、企業の方を講師に招いた事前学習等に基づく「インターンシップ」を実施しています。これらの体験学習を通して、進路実現の意識を高め、よりよく問題を解決する能力の育成を目指します。体験学習の成果については各クラスでの発表会が行われます。

(3) 3年次...「総合研究」

生徒が自分自身で決めた研究テーマに1年間取り組みます。その過程で、1・2年次の「キャリア教育」を経て明確になった進路目標の実現のための準備をさせると共に、社会人として必要なプレゼンテーション能力の育成を目指します。また、研究の成果については、各分野内における発表を全員が行い、その後代表者による発表会が渋川市民会館において行われます。渋川市民会館での全体発表には、例年、県教育委員会をはじめ、地元中学生・地域住民の方々等、多くの来場があります。

4 「キャリア教育」に果たすPTAの役割

生徒が職業人・社会人としてのあり方を学ぶ「キャリア教育」において、PTAが果たす役割として大きく二つあると本校PTAは考えています。一つは保護者自身が「職業人・社会人としての姿」を示すことです。もう一つは「キャリア教育」について生徒と共に考えていくことです。父親や母親が働く喜びや楽しみなどを子供に伝え、「働くこと・生きていくこと」の意味を共に考えていくことが重要だと考えます。

5 本校PTAの「キャリア教育」への取り組み

上記の二つの役割をふまえ、本校PTA活動における「キャリア教育」の取り組みの方針として、次の二つを考えました。一つは、PTA活動の中で「社会人としての姿」で生徒に接することです。もう一つは、「キャリア教育」について知識を深める機会を持つことです。以下、具体的にその活動を紹介します。

(1) 社会人として生徒に接する活動

マナーアップ運動

本校では、すべての保護者が3年間に一度はマナーアップ運動に参加するという方針が平成14年度に決まり、現在に到ります。保護者が路上に立ち登校時の生徒の様子を観察し、挨拶を交わすという活動を通して、コミュニケーション能力や社会人としてのマナーの育成を目指しています。また、「社会人」としての姿を生徒に示す活動でもあります。

地域の祭りにおける巡回指導

渋川へそ祭り・渋川山車祭りにおける市内巡回指導を実施しました。地域社会における生徒の安全・健全育成を図ると共に、「地域の大人」という形で「社会人」としての姿を生徒に示しました。

学校行事への参加

青翠祭(19年度)では、PTA役員が模擬店を出し、生徒と共に文化祭を盛り上げました。また、長距離大会では、走路の清掃活動や応援に汗を流しました。体育大会では、生徒とともにパン食い競走等の競技に参加しました。これらの学校行事への積極的な参加を通して、高校の活動を支える身近な大人としての「社会人」の姿を示しました。

(2) 「キャリア教育」について知識を深める活動

校内進路説明会の企画・運営

PTA・後援会総会当日のPTA研修会として、本校教員(進路指導部)を講師とした保護者向け進路説明会を実施しました。事前の保護者向けアンケートを元に、大学・短大、専門学校、就職、医療・看護の4分野で実施し、本部役員が司会・進行を務めました。また各分科会場で保護者向けの進路アンケートを実施し、その結果をPTA新聞に発表しました。生徒の進路について、保護者が生徒と共に考える機会となりました。

職員研修への参加

昨年度、県総合教育センター長期研修員として「キャリア教育」の研究を行った本校教員を講師とした職員研修にPTA本部役員も参加し、「キャリア教育」について学びました。

研修を通して、「キャリア教育」が、従来の日本の学校教育および家庭教育で行われてきたことの概念化・方法化であるという認識を持ちました。また、「キャリア教育」が小中高12年間を視野に入れた実践であり、全校体制による実践により効果を発揮する教育であることが分かりました。これらのことからPTA活動が「キャリア教育」に果たす役割の重要性が明らかになりました。

「保護者向けキャリア教育推進セミナー」への参加

昨年度、本校の保護者を対象に「保護者向けキャリア教育推進セミナー」が実施されました。講師は宝塚歌劇団出身で、現在就職支援活動に当たっておられる内海典子氏でした。セミナーでは、まず、高校卒業後の離職状況やニート、フリーターの現状についての分析があり、その上で、「キャリア教育」がどうあるべきかということについての解説がありました。その中で、企業が求める資質としてのコミュニケーション能力やチャレンジ精神などの重要性とともに、親が仕事の楽しさや苦労を子供に話すことが子供たちの職業観の形成に役立つという指摘がありました。

講義だけでなく、ゲームも取り入れた内容によってコミュニケーションの大切さ等を具体的に学ぶことができ、セミナー実施後のアンケートでも「ためになった」「楽しかった」という感想が多く見られました。今年度についても実施する予定です。

6 活動の成果と今後の課題

本校PTA活動を通して、高校における「キャリア教育」とは、「社会人としての生き方」を子供と共に考えていくことだということが分かりました。また、「キャリア教育」の根底には「親の姿を見て子供は育つ」という家庭教育の基本があることも分かりました。

今後の課題としては、「産業社会と人間」等の本校の「キャリア教育」に、PTAとしてより積極的に参加し、同時により多くの保護者に「キャリア教育」についての知識を深める機会を提供することが挙げられます。

今後、本校が取り組む「キャリア教育」の振興のためにPTAとして何ができるのかをさらに検討し、最も身近な社会人・職業人として、子供と共に進路や社会について向き合っていきたいと考えています。